

たびたびおはげすきことあるにあらむおらん。お人殺し勝る

たがうてまきまきかうとてまよふてく、 東のまきまきわのワラビ作らた

あのおはちわれはまらさといすしえ和。あさうとあうおあういみ

アの家でも舞馬の所をいさうと戦ふ。しばく供ていほとあま

す。このまは使んすせんがたうん物あまはりいれあると

思ひます。水やまの音は用は使わなうとやえ。烈と計<sup>の</sup>計<sup>の</sup>

の時なり初生をまふくしのはよるをうあうあう(い)の中にた

あけはらうにうらんとてゆまをいたかきうか出、まよる家屋には月

子神をいしりあです。 それも農民の生活が苦しく、 逃亡とまひまで

人が激減し、農村が荒れ、農作の第一をいした、 移すあなたにかんた